

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

築きあげる平和

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤牧人

意味深い二つの言葉を取り上げます。一つは、「イエスは神の国を告知したが、出てきたのは教会だった。」という発言です。19世紀後半から20世紀前半に生きられたカトリック教会のアルフレート・ロワジーという方の言葉です。これは皮肉な言葉なのでしょうか。悲嘆の言葉なのでしょうか。あるいは肯定的な言葉なのでしょうか。いずれにしろこの言葉は、イエス様と神の国と教会との関係をどのように考えていくのか、ということに関しての興味を与えてくれるものではないかと思えます。

もう一つは、「歴史は繰り返す」という言葉です。これは、今から100年ほど前にアメリカの哲学者ジョージ・サンタヤーナという方が語られた言葉の短縮形であると理解されていますが、その言葉を正確に訳すと、「過去を記憶できない者は、その過去を繰り返す運命を負わされる。」ということになるのだそうです。

「イエスは神の国を告知したが、出てきたのは教会だった。」
「過去を記憶できない者は、その過去を繰り返す運命を負わされる。」この二つの言葉を重ね合わせながら、ひとつのことを思い巡らし、考えてみたいと思えます。

まもなく今年も8月15日を迎えます。この日は忘れてはならない大切な日であると思えます。第二次世界大戦が終わった日です。終戦と呼ぶか、敗戦と呼ぶか、あるいは解放の日と呼ぶか、それは立場によって様々でしょう。この日を迎えるとき、皆様は何を想い、何を考えられるのでしょうか。私は戦後生まれであり、戦争の悲惨さを体験しているわけではありませんが、そのすごさ、むごさは、様々なことを通して十分ではありませんが理解しているつもりです。そこにイエス様のみ言葉が響いてきます。「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」(マタイ福音書5章9節) このみ言葉は何度もお聞きになられていると思えます。それゆえに、聞き流してしま

□会議・プログラム等予定

(7月25日以降および
前回報告以降追加分)

7月

- 27日(土) 正義と平和・憲法プロジェクト〔中部教区センター〕
- 29日(月) ～30日(火) 正義と平和・ジェンダープロジェクト〔京都教区センター〕

8月

- 12日(月) ～16日(金) 日韓聖公会青年セミナー〔韓国・釜山〕
- 19日(月) ～22日(木) 第2回日本聖公会女性会議〔京都教区センター〕

9月

- 3日(火) ～5日(木) 管区共通聖職者試験
- 5日(木) 年金委員・年金維持資金管理委員合同委員会
- 7日(土) 主教被選者ダビデ上原榮正、主教按手式並びに沖縄教区主教就任式〔北谷諸魂教会〕
- 12日(木) 主事会議
- 17日(火) 常議員会
- 24日(火) 管区共通聖職試験委員会

<関係諸団体等会議・他>

- 7月25日(木) 世界教会協議会(WCC) 日本代表者会〔管区事務所〕
- 30日(火) 聖公会神学院委員会〔管区事務所〕
- 31日(水) 生野センター理事会〔生野センター〕
- 8月22日(木) ～23日(金) 聖公会関係学校協議会・教職員研修会〔立教大学〕
- 29日(木) 聖公会出版総会〔管区事務所〕
- 9月5日(木) ～9日(月) 社会宣教セミナー〔韓国・釜山〕

★管区事務所夏期休業

8月12日(月)～8月16日(金)の間夏期休業いたします。よろしくお願いたします。緊急の場合は総主事まで連絡ください。

う危険も持ち合わせているかもしれません。しかし、人が人として生きていくうえで、この教えは本当に大切なことを語っているのです。

いのちを与えられ、生かされている私たちは、イエス様が教える平和を生きたこと、それを実現していくことです。そのことは神の国の実現でもあるのです。なぜなら、神の国とはいのちを大切にするとところだからです。そしてそれは平和な状態であるからです。

「イエスは神の国を告知したが、出てきたのは教会だった。」と発言したアルフレート・ロワジーの言葉を肯定的に捉えるなら、神の国を実現するのは教会であるということになりはしないでしょうか。そのとき忘れてはならないことは、教会とは、イエス様を信じる私たち一人ひとりのことであるということです。つまり、私たち一人ひとりが、神の国、平和を実現していくための働きを為し、それを継続していくことが求められているのです。一方、この言葉を否定的に捕らえられたなら、教会の現状はイエス様が語った神の国とは異なっているということなのでしょう。これは皮肉や悲嘆かもしれませんし、もしそうだとすると、この問いかけに謙虚に耳を傾けることは大切なことではないかと思えます。

私の心の中には本当に小さなものですが「平和カレンダー」というのがあります。

5月3日、6月23日、8月6日、8月9日、8月15日、12月8日。この六つの日はそれなりの想いを持って過ごすことがあります。これらの日のことはもう十分にご存じのことと思います。5月3日は

憲法記念日です。6月23日は沖縄戦終結の日です。8月6日は広島に原爆が投下された日です。8月9日は長崎への原爆投下、そして8月15日は終戦の日、12月8日は真珠湾攻撃の日です。今これらの一つ一つの意義を語るには紙面がありませんので省きますが、少なくともこれらの日は記憶に留めておきたいものであると思うのです。なぜなら、「過去を記憶できない者は、その過去を繰り返す運命を負わされる」と言われておりますように、その過ちを繰り返すことになるからです。

私は思います。あのつらい戦争の体験を昇華し、尊い経験として戦争を放棄することを決断した日本国です。そして、そのことによっていわゆる平和憲法を定めたという事実を忘れてはならないでしょう。

私たちキリスト者の使命の一つは、今、ことに、イエス様が教える平和を語らなければならないのではないのでしょうか。いのちを大切にすることを語り伝えることが強く求められているのではないのでしょうか。なぜなら、キリスト者は神の国を築きあげるために派遣されているからです。

私たちは、いのちを破壊した過去の歴史の事実を、戦争の実相をしっかりと学び、記憶していかなければなりません。そして、それを繰り返さないようにしていく任務を私たち一人ひとりに与えられているのだということを感じていたいものです。そして、そのことを通して、イエス様が告知した神の国の実現に向かって、またその継続のために、それぞれの賜物を、それぞれの場で用いて参加していきたいものです。

□常議員会

第59(定期)総会期第6回 7月10日(水)

1. 宗教法人「日本聖公会大阪教区」規則一部変更承認の件(追認)
従たる事務所を川口基督教会、大阪城南キ

リスト教会、大阪聖愛教会、聖ガブリエル教会の4教会に置く件に関して、総主事より提案・説明を受けて承認。

2. 横浜教区・日比米3教区青年交流プロジェクトへの後援に関して
管区より30万円を後援することを承認。
-

3. 管区諸規則設定・変更に関して

1) 管区事務所国内出張旅費規程の設定が総主事より提案され、検討のうえ承認。

2) 「アジア・太平洋地域平和・和解」資金規程の改訂

・第3(使用の範囲) 2の国際機関に東アジア聖公会協議会(CCEA)を追記する。

・第5(対象の選定)(1)の国際機関に東アジア聖公会協議会(CCEA)を追記する。

・第9(施行)を附則に移動する。

・題目より(ガイドライン)を削除する。

以上を常議員会決議とし、次期定期総会の承認により施行する。

3) 「重債務国開発協力」資金運営規程の改訂

・第3(使用の範囲) 2の国際機関に東アジア聖公会協議会(CCEA)を追記する。

・第5(資金の使用)(1)の国際機関に東アジア聖公会協議会(CCEA)を追記する。

・第6(手続き) 2の『管区の承認』を『管区常議員会の承認』に変更する。

・第9(施行)を附則に移動する。

以上を常議員会決議とし、次期定期総会の承認により施行する。

次回以降の常議員会

9月17日(火)・11月26日(火)

□主事会議

第59(定期) 総会期第7回 7月11日(木)

1. 直近の自然災害に関して

インド北部の豪雨による洪水と地滑りの被害被災者支援に関して、30万円をACT Allianceへ送金する。

2. タンザニアの難聴者訓練学校(ブグルニ学園)と難聴者支援団体(UMIVITA)を支援している在英国のNGO「TANZANEAR」に対して、2013年から年間20万円の支援を4年間継続する。

3. 市原信太郎司祭(礼拝委員会委員)の海外出張を承認。

出張目的: 聖公会国際礼拝協議会(IALC)

出張期間: 7月27日(土)～8月5日(月)

[10日間] 出張先: ダブリン/アイルランド

4. 聖公会関係学校教職員研修会礼拝信施奉獻先に関して

タンザニアのブグルニ学園(難聴者訓練学校)の学童のためにタンザニアのNGO経由で指定奉獻で奉げることを提案する。

次回以降の主事会議

9月12日(木)・11月15日(金)

□関係諸団体

GFS

・第58回GFS全国研修会 7月26日(金)～28日(日) 場所: ナザレ修女会 テーマ: 「核のない世界をめざして」

日本聖公会関係学校協議会

・第56回聖公会関係学校教職員研修会 8月22日(木)～23日(金) 場所: 立教大学池袋キャンパス 主題: 「一人ひとりの存在と共にあること～聖公会学校の原点を確かめる～」

日本聖公会保育連盟

・第57回全国保育者大会 7月31日(水)～8月2日(金) 於旭川 主題: 「いのち～自然からのまなび」



† 逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

Rev. Cyril Hamilton Powles (カナダ聖公会司祭、元中部教区 1949～1971) 2013年7月26日(金) 逝去(95歳)

《人 事》

東北

司祭 ヨハネ 木村幸夫 (大阪・退) 2013年6月1日付 郡山聖ペテロ聖パウロ教会牧師、小名浜聖テモテ教会管理牧師 司祭ピリポ越山健蔵との協働により、両教会の礼拝協力を委嘱する。期間は2014年5月までとする。

中部

クリスティーヌ 池住 圭 2013年6月30日付 可児ミッション総主事の任を解き、退職とする。
 司祭 テモテ 野村 潔 2013年7月20日付 可児聖三一教会管理牧師に任命する。

京都

司祭 シモン 林 永寅 2013年7月31日付 岸和田復活教会牧師の任を解く。宣教協働者としての受け入れを終了する。
 主教 ステパノ 高地 敬 2013年8月1日付 岸和田復活教会の管理を委嘱する。
 司祭 ベルナルド 大川 誠 2013年8月1日付 願いにより復職を許可する。高田基督教会副牧師に任命する。

《教会・施設》

可児聖三一教会 (中部) 2013年7月20日付 設立を許可する。

■管区事務所だより (第281号) 記事の訂正

前号7ページ4行目～7行目に組み版の乱れを生じ、執筆者の卓 志雄司祭と読者の皆様にお詫びいたします。

文章の正しい文脈は次の通りです。

(正)「聖公会については現在のところ東京、福岡、山形で活動を展開しており、まだ被害の報告は確認されていない。」

📖 出版物案内

「NSKK NEWSLETTER」2013年度第1号を発行

・記事内容

- ①「ACC - 15 に出席して」(主教 三鍋 裕)
- ②「次第に変容する東アジア聖公会」 - 2012年度 CCEA から - (主教 中村 豊)
- ③ 原子力に関する宗教者国際会議の報告 (司祭 岩城 聡)

2013年「沖縄週間／沖縄の旅」を振り返る

—「命どう宝」を発見した眼差し—

正義と平和委員会 沖縄担当 司祭 アンデレ 磯 晴久

「沖縄週間／沖縄の旅」は、主イエスの導きと沖縄教区の皆様のご協力、そして参加者の積極的な参画なしには成し得ない旅です。まず主イエスに感謝をささげます。そして沖縄教区と参加者の皆さんに感謝をささげます。

2013年6月21日(金)～24日(月)に、「2013年沖縄週間／沖縄の旅」が実施されました。各教区からの40人の参加者に沖縄教区の方々が加わり、「命どう宝～心で理解する」というテーマの下、沖縄の苦難の歴史と記憶を継承し、沖縄の現実に思いを馳せ、主の平和の実現を祈り求めました。

「命どう宝」ということばについて、いつごろから使われ始めたのかは諸説あるようですが、最近非常に興味深い文章に出会いました。それは、『教科書検定で沖縄戦での住民虐殺が削除されたことにより、沖縄戦体験者を中心とする県民が、沖縄戦にあらためて向かい合い「主体的」に語りなおして「(再)発見」した言葉だった。』(屋嘉比収著「沖縄戦、米軍占領史を学びなおす」2009年、208頁)という一文でした。地獄の沖縄戦を経験した沖縄の人々の反戦平和を希求する眼差しが発見したことばだ、と言うのです。まさに、私たちはこの「命どう宝」を発見した眼差しを共有し、心で理解するために、沖縄の地に集められたと言ってよいと思います。

<1日目> 那覇空港に集合した私たちは、フィールドトリップ「沖縄に触れる①」として、国際通り、第1牧志公設市場、やちむん通り等を、沖縄教区の方々に案内して頂きながら巡りました。沖縄の文化や生活の一端に触れると共に、何よりも沖縄教区の皆さんと親しく交流するひと時となり、参加者に好評でした。

その日の夜、沖縄教区センターにて、ドキュメンタリー「標的の村～国に訴えられた東村・高江の住民たち～60分版」を鑑賞しました。わたしたちはその内容に衝撃を受けました。

まず第1の衝撃は、住民が国から訴えられるということでした。オスプレイのためのヘリパッドが、自宅のそばに建設されると聞いた沖縄県東村高江の住民安次嶺現達さんらが、座り込みによって反対活動を始めたのは5年前のことでした。ところが、15人(安次嶺さんと妻と当時7歳のお子さんも含まれていた)が国に「通行妨害」で訴えられてしまいました。国が国策に従わない住民に裁判でもって圧力をかけるという前代未聞の恫喝裁判が行われたのです。

第2の衝撃は、ヘリパッドの建設を進める国側の不誠実な対応でした。住民に対して、知らぬ存ぜぬを通し、「オスプレイが来るとは聞いていない」と無表情に回答する国側。しかし米軍資料で高江には年間1200回以上飛来することが判明します。沖縄の人々は一体いつまで欺かれ続けるのでしょうか。米軍は今でも日本中に望むだけの軍隊を、望む場所に、望む期間に駐留させることができます。その負担が沖縄に集中しています。私たちは日本国憲法の上に日米安保条約があり、さらにその上に日米地位協定があることを思い知らされました。多くの日本人が安穏としている。それは沖縄の人々の悲しみや痛みの上に成り立っていることをわたしたちは知る必要があります。

第3の衝撃は、ベトナム戦争当時、米軍の襲撃訓練用「ベトナム村」で、高江の人々がベトナム住民役をやらされていたという映像でした。高江の人々は、常に戦争の訓練に組み込まれてきたのです。高江の住民は今も叫んでいます「我々はいつまで標的にされるのか」。

＜2日目＞ わたしたちは、フィールドトリップ「沖縄に触れる②」として、平和の礎、平和祈念資料館、摩文仁の丘ほかを沖縄教区の皆さんに導かれながらグループに分かれて巡りました。いつもは駆け足になることが多いのですが、今回は丁寧に巡ることができました。資料館の中に、証言集のコーナーがあり、つい飛ばしてしまいがちなのですが、今回はいくつかの証言を熟読することができました。沖縄戦がどれほど残忍で、汚辱にまみれたものであったか、その中を逃げ惑い、命を奪われ、大切な家族を失った人々の無念の一端を感じ取ることができました。戦争を行うのは人間ですが、戦争を許さない努力ができるのもわたしたち人間です。わたしたちは戦没者を美化し、戦争を肯定し、日本を戦争のできる国にしていこうとする動きに、抗していかなければなりません。



平和祈念資料館で展示に見入る参加者

私たちのグループは、沖縄教区執事西平妙子さんの提案で、沖縄戦で命を落とした西平執事の親族の名前を探しに平和の礎に向かいました。西平執事の父上が、10名の家族・親族と逃げまどい、半数の方がなくなったというのです。その通り、礎に西平執事が顔を合わすことができなかった方々のお名前がありました。平和の礎刻銘者数は、現時点で約24万人、沖縄出身者

が約15万人、他都道府県出身者7万7千人、外国出身者約1万5千人。今でも新しく分かった方の名前が、毎年刻まれています。想像もつかないような命の数が、戦争によって奪われました。翌日が沖縄慰霊の日で、夜ニュースに平和の礎の様子が放映されていました。一人のおじいさんが、礎の名前をさすりながら、「戦場では熱かったよね。今冷やしてやるから」とつぶやき、水を注いでおられました。沖縄戦がどのようなものであったか、そこで奪われた命のことを思い、目頭が熱くなりました。

その日の昼食は、グループごとで頂きましたが、少人数でじっくり話し合う機会ともなりました。午後、参加者はそれぞれの分宿先教会に向かいました。わたしは北部地区に向かい、夜ご馳走を頂きながら、名護聖ヨハネ教会の皆さんや、棚原恵正司祭、高良孝誠司祭、金汀洙司祭

と交流の時を持ちました。宿泊は愛楽園祈りの家で、23日の主日礼拝は、愛楽園祈りの家教会と屋我地聖ルカ教会でそれぞれ説教のご奉仕をさせて頂きました。

報告を頂いたのですが、三原聖ペテロ聖パウロ教会では、22日(土)の夜に、特別のプログラムがあり、永吉盛元弁護士のお話を伺い、また複数の三原の信徒の方が、沖縄戦に関する証言を聞かせてくださったとのことでした。

＜3日目＞ 分宿先教会での礼拝を共にし、おいしい昼食を頂いて、午後、沖縄教区慰霊の日礼拝(北谷諸魂教会)に向かいました。礼拝では、上原榮正司祭の「私たちの主は平和の主、その平和の主に従って歩もう」というメッセージに励ましを頂き、新たに判明した66人の戦没者氏名が読み上げられ、祈りの時を持ちました。そのあと、特別講演会として東北教区の

長谷川清純司祭より、「いっしょに歩こう!プロジェクトの2年～東日本大震災被災者支援～」と題して、お話を頂きました。画像を駆使して、復興が叫ばれていますが、何も変わっていない被災地の状況と、しかしそこで懸命に生きている人々の姿とそこに主イエスの働きがあることを、聖句を挙げながら、心を込めてお話してくださいました。長谷川司祭は画像の最後に、ある中学生が書いた、とてもきれいな絵を紹介くださいました。きれいな絵なのですが、津波で押し潰された瓦礫と切断された人の腕が描かれ、それをじっと見つめる幼稚園児の後ろ姿。彼らは手をつないでいます。そしてスコップやツルハシなどの工事用道具を背負っています。「わたしたちが立て直します」という気概にあふれた素敵なお絵でした。思わず涙が出ました。東北も沖縄も決して忘れてはならない所、立って見つめてみなければ何もわからない場なのです。

その夜は三原聖ペテロ聖パウロ教会にて、参加者と沖縄教区の皆様とで交流会の時を持ちました。いいお話合いの時を過ごすことができ、感謝でした。今回は沖縄教区の皆さんと、より深く交流できればというねらいをもって準備を致しましたが、ある程度その目的を達することができたのではと感じております。

<最終日> わたしたちは再び三原の教会に集まり、分かち合いの時を持ちました。それに先



沖縄教区慰霊の日礼拝に出席し、祈りをささげる参加者

立ち参加者に、①今回の旅で、最も心に残っていることは何でしょうか。②それはどうして・どのようにあなたの心に残ったのでしょうか。③このことを通して、平和への取り組みについて、これからあなたはどうしたいですか。次の一手は? ④その他、何でも。という4項目について文章化して頂き、それに基づいてグループにわかれて話し合いました。そのペーパーは提出して頂きましたので、まとめの作業をし、皆様と分かち合える資料にしたいと考えております。

長田弘著『なつかしい時間』岩波新書 37ページの「記憶を育てる」というエッセイに、次のような文章がありました。「記憶は、過去のものではない。それは過ぎ去ったものことではなく、むしろ過ぎ去らなかつたものことだ。」「人間の人間らしさを、記憶はささえます。しかし記憶は、何もしないでもおのずから自分の中にあるわけではありません。それぞれが自ら時間をかけて育てるべきものが記憶であり、ひとは記憶によって育てられ、記憶に導かれて自分にとって大切なものを手にしてきました。」実際に沖縄戦を経験した方は高齢化し、証言できる方も少なくなっています。沖縄戦の記憶をどう継承して、反戦平和を希求していったらいいのでしょうか。今沖縄が置かれている現実を、未来を生かす記憶としてどう学び、継承していけばいいのでしょうか。何もせずに記憶は記憶の役割をはたすことができません。「沖縄の旅」の使命は大きいと

考えます。各教区・教会で参加をお勧めください。青年や中高生の参加費には、管区から支援するシステムがあります。どうぞ 管区事務所にお問い合わせください。

「沖縄週間／沖縄の旅」で、「命どう宝」を発見した眼差しを共有し、あらゆる戦争を憎み、平和な日本・世界を建設するため、共に祈り歩みましょう。

2013年 沖縄週間／沖縄の旅に参加して

—沖縄の地に立って見えてくるもの—

福島聖ステパノ教会信徒
マリヤ 西間木美恵子

命^{ぬち}どう宝～心で理解する～このテーマで、今年の「沖縄の旅」は、全国から41名の参加者が集い行われました。(他に沖縄教区の方が多数参加されました。)

開会礼拝、夕食後の映像ドキュメンタリー「標的の村」鑑賞は衝撃的でした。自然豊かで静かなやんばるの森を守ろうと、東村高江の「ヘリパッドにいらぬ住民の会」の非暴力による抗議、説得活動は、胸に迫るものがありました。また、「ベトナム村」を想定しての米軍の訓練に、高江の人々(子どもも含めて)が駆り出されていたことは、驚きでありショックでした。

2日目の教会分宿、私は三原聖ペテロ聖パウロ教会に泊めて頂きましたが、教会の皆さんとの夕食後のプログラムは、心に残る素晴らしい企画でした。お二人の信徒の方(女性)の証言をお聞きできたことは、貴重な時間であり、当時の生々しい辛い体験を「本当によくお話して下さった。」と、心から感謝しています。このことをしっかりと胸に留め、伝えて行きたいと思っています。永吉弁護士^の証言の中では、「沖縄戦とは何か?—日本兵は死ぬために戦い、米兵は生きるために戦った。この間に住民が放り込まれた。」と言われたことが印象に残りました。また「基地があるがゆえに起きる少女暴行事件—このことについては、本当に基地をなくさなかつた我々が問題ではないか。」の問いかけに、福島^の原発問題のことと結びつきました。不安定さを感じながらも、40年間容認し享受し続けて来た原発、その結果の今回の事故—沖縄と福島には、共通するものがあると感じています。

全日程を終えた日の夕、「普天間基地ゲート前平和コンサート」=主催：普天間ゲート前でゴスペルを歌う会(教派を超えたキリスト者による)に参加しました。毎週月曜日の夕に行われ、この日は、百数十名(聖公会は、沖縄の旅参加者を含め10名程)が集いました。具志堅ファミリー(メジャーデビュー)のメッセージ性のある歌声、カトリックのシスター15名程の歌は、心に響くものでした。“♪世界のみんなきょうだいさ 話す言葉がちがっても 主に向かう心は みんな同じこともだから～♪”“西日を受けながら、そして明かりが灯ってから共々歌い、平和への想いを参加者全員で共有できた集会でした。始まる前に、住宅密集地の上空を飛んでいた1機のオスプレイ、飛行訓練時間などは、既に守られず、あつてないようなものだそうです。縦横無尽に飛び回る姿は、異常としか言えません。命^{ぬち}どう宝(いのちこそ宝)—基地も原発も「いのちを脅かす存在」です。永吉弁護士も言われた「基地を県外に、というのが、撤去することが…」そのことに共感します。いのちを脅かすものは、日本中のどこにもいらぬのです。そのことを、神様からのいのちを大切にす教会に集う私たちひとり一人が、自分のこととして考えて行くことが大事だと思います。

沖縄に足を運ぶと、見えてくるものがあります。毎回気づきが与えられ、次に進むきっかけになります。できるだけ多くの人に「沖縄の旅」に参加してほしいと思います。沖縄の人々の優しさは特別です。映像ドキュメントの中の高江の人々が、非暴力の苦しいたたかひの中でも、踊り歌う姿に、沖縄特有の優しさ、鷹揚さが表れているように思います。そのことが私たちに励ましを与えてくれます。沖縄から戻り直ぐに、劇映画「渡されたバトン さよなら原発」を観ました。これは、住民投票で「原発NO!」を選択した新潟・巻町の人たちのたたかひを映画化したものです。“私たちは未来に何を渡すのか”—沖縄と福島を考え併せながら、改めて問い、確認できたように思います。そして可能ならば、ひとりでも多くの方に、福島^の地にもぜひ立って頂きたいと願っています。

2013年 沖縄週間／沖縄の旅に参加して

－ 3回目の参加からの発信－

東京教区 神愛教会信徒
フィリポ 武政信宏

2年に1回参加して、今回で沖縄の旅への参加は3回目になります。

初めて沖縄を訪れたのが1988年、東京からはよく見えない沖縄の現実を仲間達に発信しながら、1992年から2003年までの10年間、沖縄で生活していたこともあります。

沖縄に住み始めた頃、デイサービスに応援に行った時、あるお年寄りからこんなことを尋ねられました。「あんた、シマどこね？」ちょっと躊躇しましたが、「東京です」と答えたボクに、彼女は二度と口を開いてくれませんでした。ヤマトウ不信の体験は少なからずありますが、それでも沖縄の人は優しいです。沖縄の思いを広げられない自分たちに絶望せず、何度も丁寧に教え、諭してくれます。でも、その優しさに僕達は甘えちゃいけない。僕達ヤマトウが沖縄に何をしてき

たか(今もしているか)を再確認する、それが今回の旅の目的です。ちょっと(いや、かなり)前置きが長くなりました。

初日に見たドキュメンタリー「標的の村」。高江には一昨年行きましたが、僕が何もしないうちに状況はどんどん悪くなり、国の横暴がますますひどくなっている現実をあらためて感じました。2日目は朝から南部に行き、平和祈念資料館や平和の礎を小グループに分かれて、回りました。いつも飛ばしてしまう証言集も一列読みました。軍事優先の名の下に抹殺されていった住民。今もよく見えていないだけで、何も変わっていない国との関係。胃が痛くなりました。

今年のプログラムは例年に比べてゆったりしていたと聞きます。しかし、前半で何だか疲れてしまいました。夕方、北部に移動して北部の教会の方と食事して、愛楽園に泊まってホッと一息。翌日、名護聖ヨハネ教会の礼拝に出席、教会員の方との交わりでもう一息。「東日本大震災被災者支援」の長谷川清純司祭の講演を聞きながら、「あなたたちが、あなたたちの足元の問題と向き合うことで私たちは連帯できる」と、昔、沖縄のある女性の方からこんなことを言われたことを思い出しました。最後に、お世話になった沖縄教区の皆様に感謝して、この文を閉じたいと思います。



東日本大震災各教区対策本部担当者会を開催

「いっしょに歩こう!プロジェクト」終了に際して、各教区の東日本大震災対策本部担当者が一堂に会することが必要との考えから、全教区の担当者が7月1日に東京の聖バルナバ教会ホールに参集し、プロジェクトの報告、会計報告、新しく始まる「いっしょに歩こうパートII」の活動などに関して協議し理解を深めた。また、今回の経験をもとに各教区に震災担当者を設置して、そのネットワークを今後活用していきたい、管区としての危機管理のあり方などについて意見が出され、持ち帰って検討することとなった。なお、管区事務所の震災募金の窓口は閉鎖していない。

*東日本大震災各教区対策本部担当者会の出席者。プロジェクトからは首座主教植松誠代表、主教加藤博道本部長、司祭大町信也運営委員長、池住圭総合ディレクター、松村豊事務局長。各教区からは、司祭飯野正行(北海道教区)、長谷川清純(東北教区)、司祭矢萩栄司(北関東教区)、片岡大造(東京教区)、司祭宮崎仁(横浜教区)司祭野村潔(中部教区)、司祭藤原健久(京都教区)、司祭原田光雄(大阪教区)、大東正人(神戸教区)、司祭柴本孝夫(九州教区)、司祭岩佐直人(沖縄教区)。管区より、司祭相澤牧人(管区事務所総主事)、大山善幸(総務主事)。

世界への窓

フィリピン聖公会に
新しい教区の誕生

少し時機を逸した感がありますが、フィリピン聖公会 ECP (Episcopal Church in the Philippines) に新しい教区が誕生したことを記します。ECPはCentral Philippines, North Central Philippines, Northern Luzon, Northern Philippines, Santiago, Southern Philippinesの6教区から構成されていましたが、2012年2月にSouthern Philippines教区から分離してDavao教区が誕生しました。2012年11月23日にはこの教区最初の主教が按手されて、ECPの現在は7教区で構成されています。

ECP成立までの概略を記してみます。1901

年に当時の米国聖公会(Protestant Episcopal Church in the USA)の総会でフィリピン・ミッション地域としてPECUSAによる宣教活動が承認され、1971年に3つの教区(ルソン島北部、マニラ中心に中央部、ミンダナオ島)が誕生しました。米国聖公会の支援の下に1990年5月にフィリピン聖公会がECPとして独立し、それから約30年が経過した2007年に海外からの援助の無い完全に独立した管区となりました。なお、Southern Philippines教区とDavao教区があるミンダナオ島は面積的にルソン島とほぼ匹敵する大きな島です。

日本聖公会とECP間では、正式な姉妹教区関係が北中央教区と中部教区、中央教区と九州教区で結ばれています。各個教会の間にも関係が築かれています。

(記・渉外主事 八幡眞也)

内閣総理大臣 安倍晋三 殿

電力会社による原発再稼働申請に関する要望書

北海道電力、関西電力、四国電力、九州電力の四社が、5原発10基の再稼働申請をしたことに心からの怒りを覚えます。東日本大震災によって白日の下にさらけ出された原子力発電の危険性と問題性は、何一つ変わっていないどころか、それに対する対策も何一つ行われておりません。東京電力福島第一原発の事故は「収束」とはほど遠い状態にあり、危険な放射能が地域や世界を汚染し続けています。これまで行われてきた「除染」作業だけでは、地域の線量はとうてい下がらないことが明らかになっています。子どもたちはそのような危険な状態の中で生活をせざるを得ません。使用済み核燃料や放射能汚染物質の量はますます増加し、「中間貯蔵」等というごまかしの手段がとられようとしています。東南海大地震をはじめ巨大地震の可能性も指摘されており、全国の国民は等しく恐怖しています。

それにもかかわらず、電力会社は再稼働の申請をしました。政府は「新たな規制基準」によって、これを認可するのでしょうか。わたしたちはキリスト教信仰の立場から、政府が人々のみならず自然のすべての生命を脅かす原発の再稼働を決して認めないように要望します。現在稼働中の大飯原発を含めて、直ちにすべての原発を廃炉にするように求めます。そして、適切な代替エネルギーの開発を政府として奨励するように求めます。

2013年7月19日

日本聖公会「原発と放射能に関する特別問題プロジェクト」
運営委員長 司祭 野村 潔

原発と放射能に関する特別問題プロジェクトのHPについて

主の平和がありますように

このたび、「いっしょに歩こう！プロジェクト」の延長線上に、管区常議員会によって、「原発と放射能に関する特別問題プロジェクト」がたてられました。原発被災者の支援活動と共に、原発と放射能に関する研究・調査・広報を行なっていきます。

このプロジェクトのHPが開設されましたのでご覧になってください。

<http://nssk.org/province/genpatsugroup/index.html>

また、原発再稼働に反対する「要望書」を安倍総理宛に送付いたしました。（この要望書は「管区事務所だより」第282号に掲載。）

「ラウンドカラー およびカラー留め」の入荷のお知らせ！

ラウンドカラー（サイズ 14.0 インチ～ 17.0 インチ で 0.5 インチごとカラーの幅 depth1"〈2.5 cm〉・サイズ 16.0 インチと 16.5 インチはカラーの幅 depth1¼"〈3 cm〉もご用意いたしました）、およびカラー留め A（前）・B（後）が入荷いたしました（英国より直輸入品）。価格：ラウンドカラーは 1 本 ¥1,000.-、また、カラー留め A（前） ¥300.-・B（後） ¥350.- です。この機会に新品のご入手を検討なさってはいかがですか？

連絡先：管区事務所 E-mail：suzuki.po@nssk.org Tel：03-5228-3171

日本聖公会管区事務所ホームページ： http://www.nssk.org/province/ ☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。 広報主事（鈴木）宛て
